

「生理」も「下着」もタブーじゃない！

自分で考えて決断し、アクションを起こす

～お笑い芸人・バービーさん

2021/02/10

さまざまなジャンルで活躍されている方々に、広く SDGs にどう取り組んだらいいか、ヒントを聞くインタビュー企画。

お笑いコンビ「フォーリンラブ」のバービーさんは、YouTube チャンネルでさまざまな情報を発信したり、下着のプロデュースをしたりと、芸人としての活動にとどまらず幅広く活動されています。自ら感じた「違和感」を出発点に、積極的にアクションを起こすバービーさんのマインドは、SDGs に取り組む際にも大切なもの。そこで今回は、バービーさんが活動を通じ感じたことや、自らアクションを起こしていくためのアドバイスを聞きました。



バービー氏

2007 年、お笑いコンビ「フォーリンラブ」を結成。現在はTBS「ひるおび!」のコメンテーター、TBS ラジオ「週末ノオト」のパーソナリティーを務めている。

2019 年末に YouTube で「バービーちゃんねる」を開設し、FRaU web でエッセイの連載もスタート。

2020 年 11 月には連載をまとめた著書『本音の置き場所』を刊行。また、自身がプロデュースするピーチ・ジョンとのコラボ下着の第 2 弾が 2021 年 2 月 17 日に発売。2016 年からは地元・北海道夕張郡栗山町で地方創生に取り組むなど、芸人だけにとどまらず活動の幅を広げている。

ラジオで初めて語った「本音」が、活動の広がるきっかけに

——TeamSDGs（以下、T）：バービーさんはここ 1 年ほどの間で、活動の幅を大きく広げています。芸人以外の活動を始めたきっかけを教えてください。

バービーさん：2019 年 8 月に放送された TBS ラジオ「ACTION」の出演が、ひとつのきっかけでした。金曜パーソナリティーだった武田砂鉄さんが、それまでラジオの経験がほとんどなかった私を番組ゲストに呼んでくれたんです。

そもそも武田さんが私に声をかけてくれたのは、自宅ロケの VTR で一瞬だけ映った本棚がきっかけだったそうです。

バービーさん：司法やジェンダーの本など、私のパブリックイメージとは違う本が並ぶのを見て興味を持ってくれたと聞きました。自宅ロケでは「本棚は映さないで」と言っているのですが、このときはたまたま一瞬だけ映ってしまい、武田さんは VTR を一時停止して見たみたいですよ(笑)。「こうやって見る人がいるから嫌なんだよ」と最初は武田さん警戒していました。

実はオファーを頂いた頃、私は活動を少しお休みしなければいけない時期でした。番組の収録中にアキレス腱を断裂し、体を張るロケには行けなくなったりして……。今後の仕事についていろいろと考え直していました。

そんなとき、「ACTION」から届いたのが、「コンプレックスについての考え方やジェンダーの問題など、いろいろとお話を伺いたい」という内容の企画書でした。悩んでいる私を見抜いたかのように鋭いその企画書を見て、これを機に「本音でしゃべってみてもいいかな」と思い、出演を決めました。

ラジオでは、私がこれまで女芸人として感じてきたことを話しました。芸人の世界では、容姿などをいじられることが多いですが、それがバラエティーショーの一環だった場合には、抵抗はあまり感じません。

ただ一方で、「自虐」はしたくないと思っています。自虐は、人より劣っているとかいないとか、「他人と比較する物差し」から生まれるものだと思うんです。

私が昔からやっている、パンツを見せるような「セクハラ芸」は、自分がやりたくてやっているもので、やらされているものでも、自虐でもありません。ただこれが、男性に消費されるだけの芸になってしまうと他の女性も傷つけることになるので、そうならないよう気を付けています。もちろん女性だけでなく、男性も傷つけることのないように。

このような本音を初めて話してみたところ、リスナーからは予想以上の反響がありました。そこから、さまざまな媒体の取材を受ける機会が増えていったんです。私はこれまで、芸人は泣いたり、つらい顔を見せたりしてはいけない、自分の信念や信条を語ってはいけないという固定観念を持っていたのですが、この番組をきっかけに考え方が少し変わりました。



必要な人に、必要な情報が行き届いていないことに危機感を覚えた

——T：そこから活動が広がっていったのですね。その後、ご自身でも情報発信を始めるようになって、周囲からはどのような反響がありましたか？

バービーさん：2019 年末に YouTube チャンネルを開設し、自分から情報発信を始めました。美容やセルフプロデュースなどテーマは広いんですが、その中の一つが「生理」でした。皆少なからず困っていることがあるはずなのに、なぜ触れないのか、ずっと不思議に思っていたんです。

動画では、女性全体というよりも、これから初潮を迎える少女たちに向けてナプキンやタンポンなど生理用品の使い方を紹介しました。ただ、私には専門的な知識があるわけではないので、一経験者として話ができればという気持ちでした。

いざアップしてみると、予想外の反応が多く、とても驚きました。同年代の女性からは、「タンポンの使い方を知らなかった」「これまでずっとナプキンの使い方を間違えていた」とコメントがあったり、父子家庭で娘を持つお父さんから「ありがとう」と言ってもらえたり……。

バービーさん：それと同時に、こんなにも必要な情報が必要な人へ届いていないことも分かり、危機感を覚えました。

そして、「下着」にも同じことを感じました。私自身、なかなか自分の体に合うサイズの下着が見つからなかったり、ブラジャーのワイヤーの跡が体に残ってしまったりという悩みがありました。こうした悩みを SNS で投稿してみると、これまで一番多くのコメントが届いたんです。「私にもこういう悩みがある」というコメントを見て、これまで声を上げなかっただけで、下着に悩みを抱えている女性はたくさんいたんだと実感しました。

ピーチ・ジョンとのコラボレーションは、企画の持ち込みからすべて自分で行い、ピーチ・ジョンと出会ってから実現まで約 2 年かかりました。

私が下着をプロデュースしたのは、体にコンプレックスを持つ女性たちに、もっと自分の体を好きになってもらいたいという思いがあったから。

私自身の悩みだけでなく、SNS に寄せられた悩みも聞いて、跡が付にくい柔らかいワイヤーを使用したり、脇高に設計してしっかりバストを支えられるようにしたり、工夫を凝らしました。下着のプロデュースを通して声を上げられないでいた女性たちとメーカーをつなぐ懸け橋のようになれたのではと思っています。



**流されるのは楽。でも最終的にアクションを起こすかどうかは、
自分にしか決められない**

——T：情報を発信したり、「違和感」に対して声を上げたりするときに、気を付けていることやご自身のスタンスはありますか？

バービーさん：私はもともと性格的に、疑問に思ったことを口に出してしまう方ですが、これまではどこか我慢しているところがありました。

しかしラジオで本音を話してからは、発言の仕方などにはもちろん配慮しながら、自分がおかしいなと思ったことや、改善したいなと思ったことは、声に出して言ってしまおうというスタンスになりました。

特に「生理」や「下着」は女性の日常生活に関わることです。日々の生活を快適にするために、どうして皆動かないんだろう？と不思議に思いつつ、その状況を少しでも改善できればと思って活動しています。

でも一方で「自分が女性の代表である」とか、「旗を振るから皆ついてきて」というような気持ちは全くありません。「皆で行動して変わろう！」とは思わないんですよね。アクションを起こすか起こさないかを決めるのは結局、自分自身です。だから私は「アクションを起こさない」ことを選んで、ちょっとしたモヤモ

やを抱えながら生きていくのも、それはそれで人生っぽくていいんじゃないかと思うんです。

ただ、現状が嫌で変わりたい、何かきっかけさえあれば動けるかも、という人たちにとって、私の書籍や YouTube で発信する情報が役立てばうれしいです。

——T：バービーさんの書籍や SNS、YouTube を見ている人の中には、若者も多くいると思います。若い世代に向けて、最後にメッセージをお願いします。

バービーさん：若い子たちには、もっともっと「自己決定」をしてほしいと思っています。私はここ一年、「自己肯定感」について聞かれる取材がとても多かったのですが、ほとんどの取材で「今の若い子たちは自己肯定感が低い」ということが前提になっていました。

私はその原因を、そもそも自分で何かを決めて行動する回数が少ないからではないかと考えています。

以前、大学生と対談をしたとき、親に言われるがまま進路を決めてきた子が少なからずいる、という話を聞きました。親世代にも責任があると思いますが、そもそも自己決定ができていないことにすら気が付いていない子が非常に多いような気がします。

私はこのことに危機感を持っていて、YouTube チャンネルの動画では、「自分で決めてね」ということを意識的に伝えています。

例えば、美容クリニックの情報を発信するときには、動画の最後で「おすすめします」という言葉を使わないようにしています。

それは、ある程度のリスクやお金がかかる美容クリニックを受診するかどうかは、自分で考えて判断してほしいと思っているからです。

バービーさん：「一つの情報に頼って物事を決めない」という点では、ニキビ治療について、東洋医学の専門家、美容クリニックの先生、化粧品会社の方を私の YouTube チャンネルに迎え、それぞれの意見を紹介したこともあります。

いろいろな考え方があることを示した上で、視聴者が自分に合う治療法や商品を自分で探してほしいという思いから動画をつくりました。

私は日頃から、自身が発信した動画で、若い子が少しでも「自己決定」をする練習をしてもらえたらいいなと思っています。

誰かに決めてもらったり、多数派の意見に流されて決めたりすることは、確かに楽です。でも自分で決められなければ、人のせいにしてしまうことがどんどん増えていって、結果的に自分を苦しめるのではないのでしょうか。ささいなことでも自分で考えて決めること、その積み重ねが自分に自信を持つことにつながるはずです。



C